

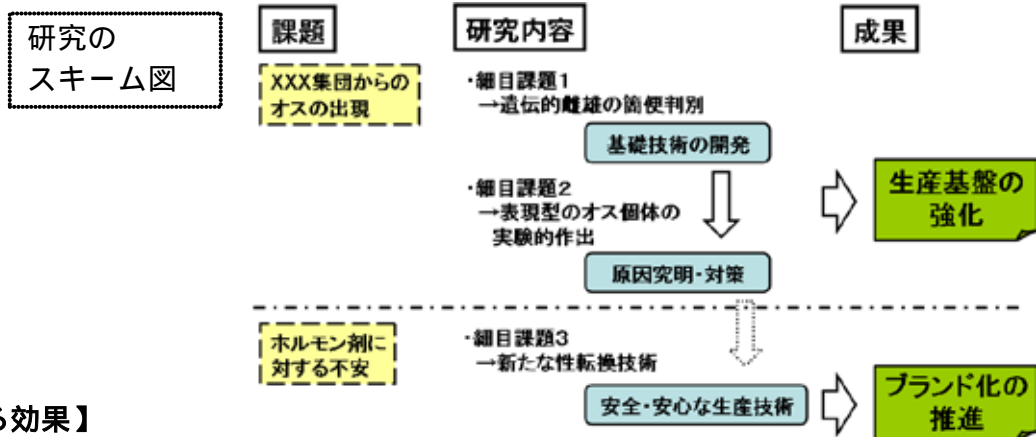
さけます類における 全雌三倍体の品質向上に関する研究

～ オス出現現象の原因究明と対策～

(予算区分 県単独 研究期間 平成27～29年度)
担当：富士養鱒場 木南竜平、松山創

【研究の背景とねらい】

- 1 さけます類における生食用大型魚の需要増加を受け、県内でも大型魚生産へのシフトが本格化しています。大型魚の養殖には、産卵期でも成熟せず身質の劣化が起こらない全雌三倍体（XXX 集団）が特別に生産され、利用されています。
- 1 しかし近年、県内でニジマスやアマゴの XXX 集団の種苗を用いた養殖中に、精巣を持つ表現型のオスが出現する事例が散見され、2年以上をかけて飼養した魚が成熟し商品価値を失ってしまうことから養殖経営に大きな損害を与えています。
- 1 本現象の原因として、XXX 個体が環境要因により性転換を起こしたのか、作業ミス等により XXX 集団中に XY/XXY 個体の混入が起こったのか、又はその他の要因によるものなのか、明らかにできていません。
- 1 一方で、食の安全・安心に係る消費者の意識が高まる中、性転換に用いられるホルモン剤が消費者の不安を煽ることから、代替技術の確立が業界から切望されています。
- 1 そこで本研究は、(1)表現型のオス個体が出現する原因究明及び対策の確立を図ること、(2)新たな性転換オスの作出技術を開発すること、を目的とします。



【期待される効果】

- 1 遺伝的雌雄の判別手法のマニュアル化、XX 雄親魚の検査体制の構築、適正飼育の徹底を通して、XXX 集団から表現型オス個体の出現を未然に防ぐことにより、生産者の経営リスクを減少させるとともに、消費者への大型魚の安定供給が期待されます。
- 1 加えて、ホルモン剤を使用しない性転換技術の実用化により、安全・安心な静岡県産ニジマスの PR とブランド化が促進されます。

【年次計画】

細目課題	27年度	28年度	29年度
遺伝的雌雄を簡便に判別する手法の開発			
表現型のオス個体の出現条件の検討			
ホルモン剤を使用しない新たな性転換技術の開発			

(作成 平成27年4月)